

編集後記

新緑が美しい季節になりました。本月報では、前回の 275 号に引き続き、東部・北部インド総合研究特集号の第 2 弾をお届けします。

今回は、お二人のインドの方にご執筆いただきました。1 本目の“Life and Trade in the Indian Ocean World from Eighteenth Century Chandernagor”を執筆いただいたリラ・ムカージー氏は、シャンデルナゴル研究所の所長です。フランスの植民地交易の中心として発達したシャンデルナゴルの歴史について、ベンガル湾を含んだインド洋交易という大きな文脈の中に位置づけた興味深い解説を寄せていただきました。彼女には今回の人文研の総合研究の際にも現地で講義をいただいています。2 本目“Nalanda University : A University for the 21st Century”は、ナーランダ大学アカデミック・プランニングの長であるアンジャナ・シャルマ氏に執筆いただきました。5 世紀に創立されたアジア最古の大学・ナーランダ大学遺跡の近くにインド政府によって誘致された新しいナーランダ大学についての設立の経緯やその理念、現状について記述されていますが、そこからは今後のアジアにおける大学の役割に対する大きな期待が伝わってきました。

後半は、総合研究に参加したメンバーからの投稿です。内藤雅雄氏の「1939 年 インドの政治危機—スバース・チャンドラ・ボースをめぐる—」では、インド独立運動の中心であった国民会議派にとって政治危機の年となり、さらに第二次世界大戦の勃発した 1939 年（とその後の数年間）に焦点を当て、ガンディーとボースそしてネルーの 3 人の活動と立場から、その時期のインド現代史における重要性について論じられています。同じボースを題材とした堀江洋文氏による「スバース・チャンドラ・ボースの再評価」は、英国に対するインド独立闘争で大きな役割を果たしたスバース・チャンドラ・ボースに焦点を当て、インド国内のみならず、ナチス・ドイツやアイルランド等のヨーロッパ諸国、日本、東南アジアでの彼の足跡をたどり、内外の文献・史料を渉猟して論じられたもので、ボースの活動人生とともに世界中を巡っている気分になります。

インドの歴史的な苦難と闘いのみならず、一方ではこれからの未来の一端も垣間見られる本号となりました。(HH)

執筆者紹介

Rila Mukherjee	Director, Institut de Chandernagor, Chandernagore, India
Anjana Sharma	Dean, Academic Planning, Nalanda University, India
内藤 雅雄	元文学部教授・ 東京外国語大学名誉教授
堀江 洋文	経済学部教授

専修大学人文科学研究所月報

第 276 号 (2015. 5. 29)

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田 2-1-1

専修大学人文科学研究所

発行者 伊 吹 克 己